

おろして、もとのところへ納めよというお経を読み始めたんだとお。

「ノーボ、アラタンノトラヤーヤ。ノーボ、アラタンノトラヤーヤ。ノーマクアリヤミタバヤ、タダキアタヤ アラカテー」と、となえると不思議に雲は晴れ、怪猫の姿はなく柩はもとのところへつりおろされて、葬式は滞りなく済みますことができたんだとお。それ以後、葬式には必ずこのお経をとなえることになったと
や。